



日本のビジネス習慣行

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業の労働環境とシステムは、勤労性という美徳を抱く。これらは歴史における労働への信仰が存在するためである。

しかし現状はこれら既存の労働基準を革命的に変化させているのである。これらはインダストリー4.0という新しい潮流とともに、効率性という企業判断が新しい労働基準への転換を有するためである。

これらは労働における判断が大きく変化していることであり、企業がその品質基準における厳しさを求めることと、若年層における労働への取り組み姿勢の変化において、企業はその葛藤を与えられるものである。

生産はその品質要求を必ずクリアしなくてはならない。この絶対性は企業の生命線である。他方においてインダストリー4.0における生産はこれらをクリアできるものである。

GOOGLE や NETFRIX における新しい就業環境は、その創造性や新しい就業基準を有するものである。これらは労働における変化を明確に証明しているのである。

また知的生産性における企業要求は必ずその企業環境の変化を求められる。これらは明らかに現いつへの変化を世界が有するためであり、時代変化は新しい現実への対応として理解しなくてはならない。

これらは既存性が現実変化への対応を要求するという認識は正しいのである。唯一知的生産性へのシフトという現実として理解しなくてはならない。

これらは企業の変化が、これら知的生産性へのシフトという現実において要求されることであり、他方においてはインダストリー4.0という潮流が未来に存在するのである。

これら企業転換は時代変化への企業基準と環境の革命的変化への対応を新しい基準の要求と共に存在すると考えるべきである。